立憲主義破壊に抗議

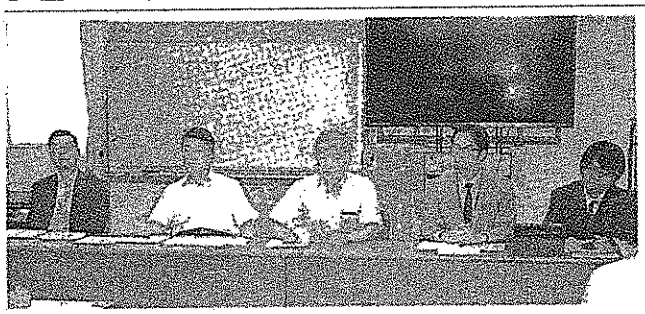
県弁護士会 歴代会長ら声明

埼玉

衆院安保法制特別委員会で15日、戦争法案が強行採決されたことについて、埼玉弁護士会の石河秀夫会長は同日、埼玉弁護士会館内で記者会見し、「立憲主義および民主主義を破壊するものであって、断じて許されない」と抗議する談話を発表しました。会見で石河会長は「あらゆる運動を起こして廃案にする」と表明しました。

歴代会長有志による戦争法案に反対する声明も発表されました。声明は会長経験者29人中27人の連名によるもの。会見に同席した、小出重義元会長は「歴代会長の、やむにやまれぬ気持ちが込められている」と述べ、佐々木新一元会長は「立憲主義が崩されることは、弁護士の職業的立ち位置が失われるほど深刻な問題だ」と語りました。

同弁護士会は、30日に取り組む浦和駅東口宣伝をはじめ、県内各地で行動を予定しています。



抗議談話を発表する石河会長（左から3人目）＝15日、さいたま市

長野

戦争法案に「黙っていられない」と、長野県弁護士会の歴代会長有志27氏が15日、「集団的自衛権行使にかかわる法案を撤回、廃案に」と求める緊急声明を発表しました。「立憲主義の歴史的危機」と、実質2日間の取り組みに賛同者が急速に増えました。

高橋聖明現会長をはじめ歴代会長のほとんどが加わるなど、法曹界としては異例の意思表示となり、会見には、田下佳代（前会長）、武田芳彦、和田清二の3氏が臨みました。

田下氏は、「立憲主義は人類が誤りを繰り返す中でつくりだしたもの。大戦の反省の上に憲法9条がある。立憲主義を踏み越えた法案を通さないように」と述べ、衆院特別委の強行採決を「いたたまれない気持ちだ」と強く批判しました。

和田氏は、強行採決の暴挙に「そこまでやるか。信じがたい。市民とともに、廃案の道はある。たたかいは、これから」と意気高く語りました。

武田氏も、「立憲主義、法の支配は曲げることのできない原則。『法律家の魂』を守るために立ち上がった」と述べました。

「立憲主義の危機。法案廃案へたたかいこれから」と語る和田氏（右）と田下（中央）、武田の各氏＝15日、長野市

「撤回を」各団体が声明

日本ペンクラブ

日本ペンクラブ（浅田次郎会長）は15日、声明「本日の衆議院特別委員会での強行採決に抗議する」を発表しました。声明は次の通りです。

「日本ペンクラブは、本日、衆議院特別委員会で強行採決された、安全保障法案に強く抗議し、全ての廃案を求める。集団的自衛権の行使が日本国憲法に違反することは自明である。私たちは、戦争にあくまでも反対する」

JCJ

日本ジャーナリスト会議（JCJ）は、自民、公明両党が15日の衆院特別委員会で戦争法案を強行採決したことにたいする抗議声明を同日発表しました。

声明は、強行採決が「国民と国会を侮辱・愚弄（ぐろう）すると同時に憲法を蹂躙（じゅうりん）する暴挙である」と強く抗議し、撤回を要求しています。

児童文学関係者

子どもの本の作家、画家、研究者、編集者などが一堂に集まってつくる「フォーラム・子どもたちの未来のために」の実行委員会は15日、「安保法案」の衆院特別委員会での強行採決に強く抗議する緊急声明を発表しました。「憲法違反の疑いの極めて高い法案を力によって押し通すこと」は民主主義、立憲主義の破壊だと批判。法案の撤回と「60日ルール」を使わないことを求めています。

同フォーラムの構成団体は、絵本学会、絵本作家・画家の会、童話著作者の会、日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、日本児童文学者協会、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会。

7/16 赤旗